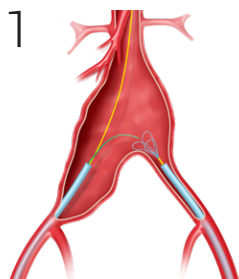
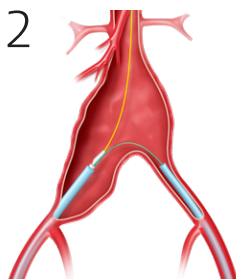


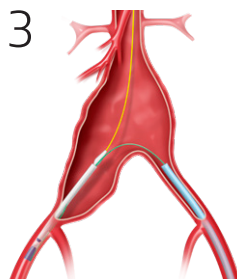
留置ステップ (IBEを対側に用いた場合)



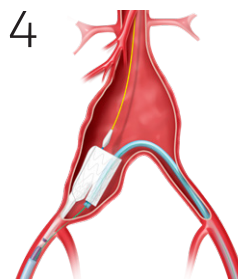
IBE 留置側よりゴア®ドライシール フレックス イントロデューサシース (以下ドライシールフレックスシース) の挿入後、軟質ガイドワイヤーとスネアを用いてプルスルーを作成する。



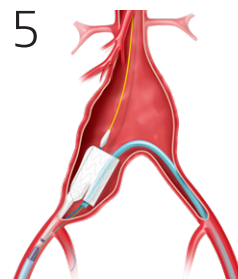
IBE 留置側より、2本のガイドワイヤーに沿ってイリアック・ブランチ・コンポーネント (以下IBC) を進める。



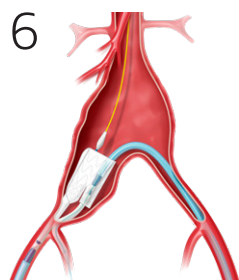
IBE 留置側のシースを引き下げ、インターナルイリアック・ゲート部を示すX線不透過マーカーリングが内腸骨動脈の起始部より中枢に位置するように調整する。



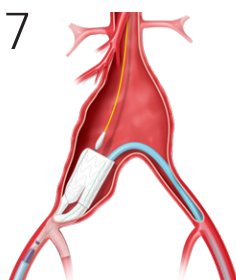
プロキシマルディプロイメントノブ (写真③参照) を引き、IBC 中枢側を展開する。反対側から12 Fr×45 cmのドライシールフレックスシースをインターナルイリアック・ゲート内まで進める。



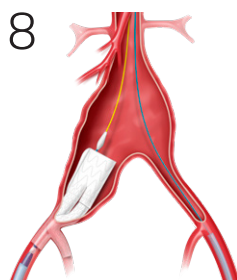
内腸骨動脈へガイドワイヤーをカニューレションする。中枢側のみ展開したIBCは左右90度以内のローテーションおよび内腸骨動脈へのカニューレションを容易にするために末梢側へ移動させることができる。



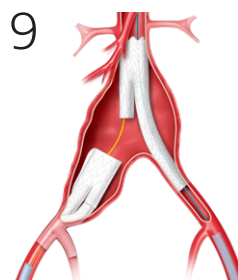
インターナルイリアック・コンポーネント (以下IIC) を進め、IIC 中枢側のマーカーとIBC のロングマーカーの位置を合わせる (オーバーラップ)。



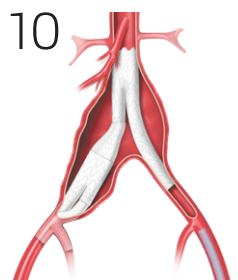
IIC の展開を行い、接合部および内腸骨動脈へのランディング部分のバルーン圧着を行う。その後スルーワイヤーを抜去する。



ディスタルディプロイメントノブ (写真④参照) を引き、未展開のIBC 同側末梢脚部 (外腸骨動脈側部) を展開する。



12 Fr×45 cmドライシールフレックスシースからトランクイブシラテラル・レッグ (以下メインボディー) 留置に必要なシース (16 Frもしくは18 Fr) に交換する。メインボディーを展開する。



23 mmもしくは27 mmのコントララテラル・レッグを用いて、メインボディーとIBCを連結 (ブリッジング) する。

STAGED DEPLOYMENT



[写真①]



リムーバブルガイドワイヤーチューブ



[写真②]

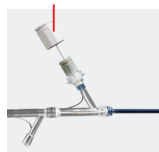
プレカニューレションされたインターナルイリアック・ゲート



アオルティックワイヤー

スルーワイヤー

プロキシマルディプロイメントノブ

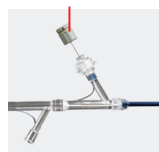


[写真③]

イリアック・ブランチ・コンポーネント 中枢側の展開

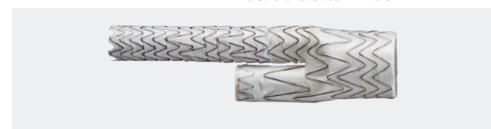


ディスタルディプロイメントノブ



[写真④]

イリアック・ブランチ・コンポーネント 同側末梢脚部の展開



SIZING GUIDE

トランクイブシラテラル・レッグ(メインボディー)

中後側対象血管内径 (mm)	ステントグラフト 大動脈側直径 (mm)	ステントグラフト 末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr)
19-21	23	10-11/12-13.5	12 / 14.5	12 / 14 / 16 / 18
22-23	26	10-11/12-13.5	12 / 14.5	12 / 14 / 16 / 18
24-26	28.5	10-11/12-13.5	12 / 14.5	12 / 14 / 16 / 18
27-29	31	12-13.5	14.5	13 / 15 / 17
30-32	35	12-13.5	14.5	14 / 16 / 18

イリアックブランチ・コンポーネント

外腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr)
6.5-9	10	10	16
10-11	12	10	16
12-13.5	14.5	10	16

インターナルイリアック・コンポーネント

内腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)	推奨シース (Fr x cm)
6.5-9	10	7	12 x 45
10-11	12	7	12 x 45
12-13.5	14.5	7	12 x 45

コントララテラル・レッグ* (ブリッジング用コントララテラル・レッグ)

総腸骨動脈対象血管内径 (mm)	ステントグラフト末梢側直径 (mm)	ステントグラフト長 (cm)
17-21.5	23	10 / 12 / 14
> 21.5	27	10 / 12 / 14

IBE 治療側に必要な長さ

-IBEをC3トランクイブシラテラル・レッグの対側に用いた場合

トランクイブシラテラル・レッグ (メインボディー) ステントグラフト直径 (mm)	低位腎動脈から 内腸骨動脈分岐部までの長さ (cm)
23, 26, 28.5	16.5
31	17.5
35	18.5

IBE 治療側に必要な長さ

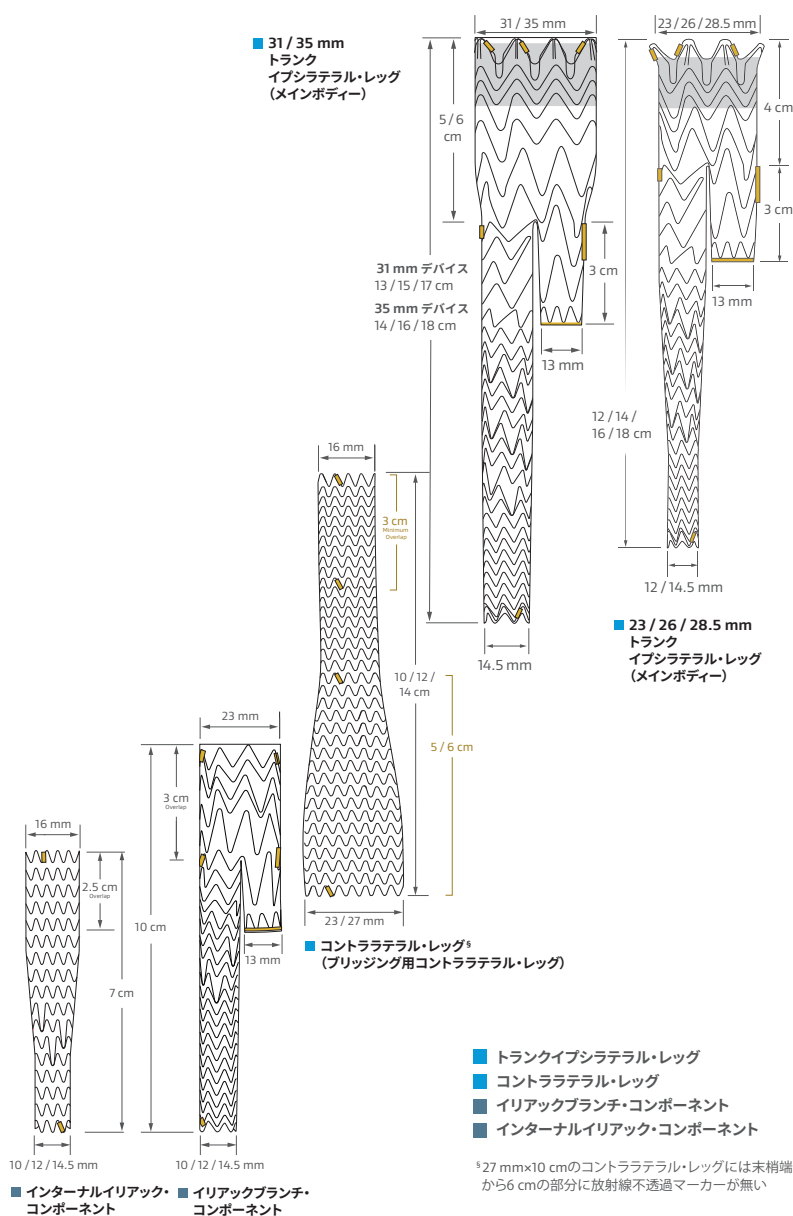
-IBEをC3トランクイブシラテラル・レッグの同側に用いた場合

メインボディー ステントグラフト直径 (mm)	低位腎動脈から 内腸骨動脈分岐部までの長さ(cm) 23 mmコントララテラル・レッグ使用時*	低位腎動脈から 内腸骨動脈分岐部までの長さ(cm) 27 mmコントララテラル・レッグ使用時**
23, 26, 28.5	19.5	20.5
31	20.5	21.5
35	21.5	22.5

*コントララテラル・レッグをイリアック・エクステンダーとして使用する際にはゴア®エクスクルーダー®のメジャメント・デバイスセグメントを参照すること。

**末梢側5 cmのテーパ形状部がメインボディーとの接合部分に位置しないこと。

†末梢側6 cmのテーパ形状部がメインボディーとの接合部分に位置しないこと。



Aortic Accessories

ゴア® ドライシール フレックス イントロデュサシス

品番	規格 (Fr x cm)
DSFI233	12 x 33
DSFI245	12 x 45
DSFI433	14 x 33
DSFI633	16 x 33
DSFI833	18 x 33

ゴア® MOB バルーンカテーテル

品番	拡張レンジ (mm)	バルーン長 ¹ (cm)	カテーテル シャフト 有効長 (cm)	適合 シース径 (Fr)	適合 ワイヤー径 (inch)	推奨する拡張溶液の使用量	
						バルーン拡張径 (mm)	拡張用液量 (mL)
MOB37	10-37	4	90	10 以上	0.035	10	2
						20	7
						30	16
						37*	35

注意:

- ・使用の際には添付文書(電子化された添付文書)を参照すること。
- ・表の数値は推奨値であるため、バルーンの拡張はX線透視下で確認しながら行うこと。
- ・バルーンを血管径よりも大きく拡張させないこと。
- ・最大バルーン拡張径(37 mm)を超えて拡張させないこと。
- ・最大バルーン拡張径(37 mm)に対して拡張溶液量48 mLを超えないこと。

¹公称値

*最大バルーン拡張径

販売名: エクススクルーダー® Y字型ステントグラフトシステム 承認番号: 21900BZY00011000

販売名: ゴア® ドライシール フレックス イントロデュサシス 承認番号: 22800BZX00461000

販売名: ゴア® MOBバルーンカテーテル 承認番号: 23000BZX00170000

ゴア, GORE, Together, improving life, エクススクルーダー®, IBE, EXCLUDER, MOBおよび記載のデザイン(ロゴ)は, W. L. Gore & Associates の商標です。

© 2022 W. L. Gore & Associates, Inc. / 日本ゴア合同会社 22446601-JA MAY 2022

製造元 W. L. Gore & Associates, Inc.

製造販売元 **日本ゴア合同会社**
メディカル・プロダクツ・ディビジョン

〒108-0075 東京都港区港南1-8-15 Wビル
T 03 6746 2560 F 03 6746 2561 gore.co.jp

